

令和2年度第2回小田原市郷土文化館協議会 議事録

- 1 日時 令和3年2月16日(火) 会議資料を委員へ発送
令和3年3月9日(火) 意見、質問確定
- 2 会場 書面会議
- 3 出席者
 - (1) 郷土文化館協議会委員(書面会議参加者)
一寸木委員長、鳥居副委員長、篠原委員、田尾委員、高松委員、田嶋委員、
中村委員、星寄委員、山下委員
 - (2) 市事務局側(書面会議対応職員)
湯浅生涯学習課長、田中主任、中村主任、保坂主事
- 4 会議の概要
書面会議にて実施し、委員から寄せられた御意見・御質問について、次のとおり事務局から回答する。

1 報告事項

(資料1) 利用者統計(令和2年度)

(意見)

- 篠原委員： ・コロナ禍にもかかわらず一定の入館者数が確認できる。感染症対策をした上で開館したことの意義は大きく、高く評価できる。
- 高松委員： ・コロナ禍でしかたがないと思う。学校としても、校外学習に出る活動はほとんどできていない。
- 一寸木委員： ・コロナ禍での開館で入館者が少なかったのはしかたない。
- 星寄委員： ・元年度、2年度はコロナ禍の影響を受けたようで、小学校の利用が減ったようだ。良い資料が展示してあるため、教員がもっと施設のことについて知り授業との関連を考えていくことが大切だと思う。体験的な学習が重視されていることを考えると、もっと施設(お城や古墳等も含め)が活用、紹介されることを望む。子どもたちに「小田原わが町」というふるさと意識を高める地域を多面的に知らせることは学校の大事な仕事であると考えます。

(質問)

- 田尾委員： ・郷土文化館入館者数の12月が昨年度比9.56と増加しているのは、昨年度は展示替え等の休館だったか。
- ・今年度は別として、例年、松永記念館の学校利用は少なく固定的な気がしますが、学校利用の促進は考えているか。

- ・また、現状での学校利用の主な目的は。
- 事務局回答：
- ・昨年度 12 月は館内整理期間として 12 月 2 日から年末まで休館した。
 - ・学校利用の促進については、地域の美術作品鑑賞の場として、大窪小学校や城南中学校にも働きかけをしていきたいと考えている。過去の実績としては、29 年度に鴨宮中学校で美術作品の鑑賞の仕方について出前講座を行ったことがある（6 回）。
 - ・現状での学校利用の主な目的は、松永記念館が所在する地区の大窪小学校が毎年 4 月の開校記念日に地域の歴史を知るための見学会を行っており、松永記念館をはじめ、香林寺や秋葉山量覚院など近隣の寺院を含め、案内している。また、夏には中学生が茶会体験をする「学校茶道」の会場として利用されている。
- 一寸木委員：
- ・12 月における前年が少なかった理由は何か。
 - ・また 1 月が少なかったのは、初詣自粛か。
- 事務局回答：
- ・昨年 12 月は館内整理休館のため 12 月 2 日から年末まで休館した。
 - ・2021 年 1 月は 8 日から緊急事態宣言発令により臨時休館し、開館期間が 4 日間であったため入館者数が少ない。
- 鳥居委員：
- ・資料 1-1 について、12 月の入館者数だが、前年比 9.59 となっている。これは前年同月の入館者数 136 人が極端に少なかったためで、本年度は例年並みになったと理解してよろしいか。（昨年度報告があったと思うが、なぜ昨年 12 月は極端に少なかったのか）
 - ・資料 1-3 について、学校利用状況について、郷土文化館の令和 2 年分だが小学校の学校利用が 1 件だが、この背景にはどのようなものがあるか。
- 事務局回答：
- ・12 月の入館者数は、平成 26 年に近い数字となったが、直近 5 年においては少ない数字である。また昨年 12 月は館内整理休館のため 12 月 2 日から年末まで休館した。
 - ・令和 2 年度の学校利用が 1 件であることは、例年の市内小学校の利用が年度末に集中するため、まだ 12 月時点では利用学校数が少ないと考えている。
- 中村委員：
- ・コロナのための休館の時期、期間などは市が決めたのか。博物館側の提案なのか。主体性を知りたい。
- 事務局回答：
- ・臨時休館は小田原市感染症等危機管理対策会議が決定した方針に従った。
- 山下委員：
- ・今年はコロナ禍の影響で、比較となるデータにならなかったと思います。11 月が総入館者数も一日平均も多いようですが、これは例年見られる郷土文化館の特徴か。

事務局回答： ・例年入館者数が比較的多い月は、3月、4月、5月、8月、11月である。11月に入館者数が多いのは郷土文化館の特徴である。

（資料2）展示事業概要（令和2年度）

（意見）

一寸木委員： ・中里遺跡の展示は良かった。サテライト展示をダイナシティでもできるとよい。

・2階展示を刷新・改善するプロジェクト（ボランティア）を発足させたらどうか。

事務局回答： ・中里遺跡に関する展示を今後実施する際には、サテライト展示についても検討したい。

・2階展示室の民俗資料室、自然科学資料室は、昨年度一部展示替えを行い徐々に改善している。ただし自然科学資料室は専門の職員がいないため、山下委員を含む県立生命の星・地球博物館の学芸員にもご相談したいと考えている。ボランティア活動をするにもグリップを握れる職員が必要なため、同様に相談していきたい。

篠原委員： ・常設展においてはガラスへの飛散防止フィルムの施工など、災害時等の危機管理に対する意識が感じられる。今後は、ユニバーサル・デザインを導入するなど、誰もが楽しめる博物館を目指した展示事業を展開してほしい。

事務局回答： ・ユニバーサル・デザインについて検討してきたが、建築面での制約が大きい。松永記念館では車いすでの展示や庭園の見学が可能な整備を進めているが、郷土文化館は難しい状況である。ソフト面など可能なことから実施したい。

中村委員： ・「市制80年記念ミニ展示」は博物館について見直し、知っていただくよい展示だったのではないかと。

（質問）

田尾委員： ・(1) 常設展示・歴史資料室の説明が、平安時代から江戸時代となっているが、平安時代は飛鳥時代または広く「古代」にした方がよいのでは。資料7-1とも整合していない。

・同じく、民俗資料室には明治以前の民俗資料はないのですか？道祖神も大正以降？

・(3) 連携展示の中里遺跡出土品は県指定文化財に「登録」ではなく「指定」。

事務局回答： ・展示替え以前の説明をそのまま残しているため平安時代となってい

るが、「古代」とする方向で検討したい。

- ・民俗資料は主に大正時代から昭和にかけて使用された資料を展示している。展示している道祖神関係資料は昭和中頃に使用、収集された資料である。

鳥居委員： ・資料 2-1 について、「文化人資料室」という名称だが、かつては展示と室名が一致していたと思うのだが、展示の改修により、現在は近代以降の展示が中心となっており、室名の変更を行ってもよいのでは。

事務局回答： ・展示室名は、小田原市郷土文化館条例や施行規則に明記されていないため、変更可能である。随時内容に則した展示室名とするよう検討する。

山下委員： ・企画展示も連携展示も興味深い内容だと思う。観覧者数が同じなのは、一律に入館した方は企画展示と連携展示を見学したという理解で良いか。

事務局回答： ・展示室毎に観覧者をカウントしていないため、入館者カウントを各展示の観覧者として提示している。

（資料 3）その他普及事業概要（令和 2 年度）

（意見）

篠原委員： ・地域に根差した普及活動に一定の成果が確認できる。今後は、地域住民とともに進めた調査などの成果も展示事業で取り上げる頻度を高くし、活用してほしい。

事務局回答： ・調査成果の発表は十全にできていないため、常設コーナーを設けるなどの検討をしたい。

一寸木委員： ・サポーターの養成を今後考えていくことが必要。

事務局回答： ・普及事業のサポーターは、調査研究ボランティアを優先して試行しているため、次のステップと考えている。

山下委員： ・普及事業はコロナ禍の影響で大変だったと思う。これは主催者の判断かと思うが、例えば 11/21 の郷土研究講座などは 33 名もの参加者があり、コロナ対策に苦勞されたと思う（ちょっと多すぎる気も？）。

事務局回答： ・11 月 21 日の郷土研究講座は、会場定員の半数となるよう実施したが、当日キャンセル、申込せず来場した市民への対応が混乱し、半数を超えてしまったため、今後の課題としたい。

（質問）

田尾委員： ・博物館実習の受け入れの際には、どのような受け入れ指針があるか？

・ホームページ上での所蔵資料公開している URL を明記すべき。

事務局回答： ・ 受入基準は①「博物館実習」の単位を、当館における実習により修得することを目的とする学生であること。②資格の取得のみが目的でなく、将来実際に博物館学芸員の職に就くことを希望する学生であること。③歴史学(日本史)、考古学、民俗学、美術史ないしはこれに類する学科を専攻する、あるいはこれらの学科を履修し、将来専門分野とすることを希望する学生であること。④実習期間の全日程を受講することが可能であること。⑤生涯学習課長が適当と認める者。以上のことを明記した「博物館実習生受入れ要項」をホームページにて公開している。

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/kyodo/topics/musetraining.html>

・小田原市郷土文化館のホームページ、トップページからリンクしているページである。

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/kyodo/materials/materials.html>

一寸木委員： ・ 郷土学習講座はこれからも続けていきたいが、観光ガイドボランティアとの協働は考えていないか。

事務局回答： ・ 現在は依頼を受け、ガイド養成講座に出講している。

鳥居委員： ・ 資料 3-2 について、5 に記載のある「旧国府津村文書」には（長谷川文書）と補記されているが、二つの文書名の関係はどのようなものか。
・ 資料群名の中に「郷土文化館購入文書」とある。個別に購入した複数の文書だろうから、表現に苦慮されていることは理解できるが、このままだと内容が分からない。例えば中世文書□点、近世文書□点などの補記が必要かと思う。

事務局回答： ・ 「旧国府津村文書」として購入し、調査の過程の中で長谷川家の旧蔵文書であることが判明したためこうした表記となった。
・ 「郷土文化館購入文書」の表記については、今後の参考とさせていただく。

中村委員： ・ コロナのこの時期に普通通り実施するだけでなく、現況についてふれるコーナーがあってもよかったのではないか。

事務局回答： ・ コロナ禍での特殊な状況でも、時節に沿った展示ができるよう努力したい。

山下委員： ・ 内野邸プロジェクト実行委員会は、委員会の構成メンバーや内容は。

事務局回答： ・ 内野邸プロジェクト実行委員会は、板橋地域の地元住民や板橋商店会の有志を主体とする板橋まちなみファクトリーのメンバーと小田原

市で構成されており、役員は 4 名である。内野邸の特別見学会や貸館、イベントの開催などを主な活動内容としており、毎月定例会を開き、事業報告や今後の予定について意見交換を行っている。

(資料 4) 資料収集・調査・管理等業務 (令和 2 年度)

(質問)

- 篠原委員： ・資料 3 の項でも記したが、石造物調査や収蔵古写真調査など、市民ボランティアとともに行う調査を今後も増やしてほしい。
- 事務局回答： ・市所属学芸員と調整し調査対象を広げていきたいと考えている。
- 田尾委員： ・(3) 採集の項目名称について、「採集」は標本や資料の元になるものを集める意味合いが強いため、狭い意味あい「収集」としたらどうか。特に美術資料に違和感がある。
- 事務局回答： ・「採集」の表記は、今後検討させていただく。
- 一寸木委員： ・2023 年が関東大震災 100 年となるため、関連の資料収集を行うとともに展示に活かす。
・資料整理のデータベース化が必要。
- 事務局回答： ・関東大震災に関する資料は、郷土文化館で収蔵しているが活用できていない。そのため既存資料の見直しと活用を中心に進めていきたい。
・整理した資料はデータベース化、インターネットでのリスト公開を行っている。今後も継続したい。
- 中村委員： ・資料データ化を進めて欲しい。
- 鳥居委員： ・資料 4-2 について、(1) 11 は弾頭部だけのことか、そうならば [37 ミリ・薬莢なし] は [37 ミリ・弾頭] の方が資料の名称としては適切では。
・また、17 は転用したものは銃弾の全体か、薬莢部だけか、「銃弾」はいわゆる弾の全体名で弾頭、薬莢、発射薬、雷管などからなる。火薬だけを利用した残りのものが残るということで(この場合でも火薬を抜くため雷管部は外したのでは)、「転用残物」とされたとしたら、その意味が分かり難いのでは。
・資料 4-3 について、(3) 3 近代宮大工関係資料の員数表記 (建築図面 (20 点)、雛形本 6 冊) となっているが、表記法が統一されていない。
() だけでなく、冊とするならば他の資料について資料の形態に合わせた単位を使用すべき。
- 事務局回答： ・弾頭部分のみのため、ご指摘いただいたとおり [37 ミリ・弾頭] に変更したい。
・「銃弾」から「弾頭、薬莢」に変更したい。

- ・近代宮大工関係資料は（建築図面 20 枚、雛形本 6 冊）と変更したい。
- 山下委員：
 - ・資料収集（寄贈、寄託、採集）および資料整理に関しては、年毎の数がわかるとよい。決して、多ければ良いということではないが。
 - ・今年の講演・発表は仕方ないが、知名度を上げるためにも、執筆がもっと多いとよいと思う。
- 事務局回答：
 - ・資料収集（寄贈、寄託、採集）の年毎の数は次回の資料から盛り込ませていただきたい。
 - ・執筆は、業務として取り組めるため郷土文化館研究報告への投稿をするよう内部でもより声をかけていきたい。

（質問）

- 田尾委員：
 - ・資料収集関係・(1) 寄贈の歴史資料 12 に関して、先の民俗資料室の展示とも関わるが、歴史資料と民俗資料の線引きは？近世／近代あるいは継続しているか否か。
- 事務局回答：
 - ・資料収集方針に則っている。明確な線引きが難しい資料は、都度学芸員で相談している。
- 鳥居委員：
 - ・資料 4-1 について、(3) (4) では「市民ボランティアと協働して」とある。協働とは「同じ目的のために対等の立場で協力して働くこと」の意と理解するが、郷土文化館の定義も同様か。
 - ・また、市民ボランティア活用に際して「規則」のようなものは作成したか。
- 事務局回答：
 - ・「協働」は、ご指摘のとおり解釈している。
 - ・ボランティア規則については、他事例を参考に内部検討している。

（資料 5）施設管理業務（令和 2 年度）

（意見）

- 篠原委員：
 - ・松永記念館関係ではバリアフリー化（園路整備）などが予定されているようだが、郷土文化館も含め、ユニバーサル・デザインを導入した博物館づくりも進めてほしい。
- 事務局回答：
 - ・郷土文化館の施設改修は難しいが、前述のとおりソフト面などで対応を考えたい。
- 一寸木委員：
 - ・引続きよろしく願います。

（資料 6）博物館構想推進事業における取組（令和 2 年度）

（意見）

- 篠原委員：
 - ・改めて大きな視点から自治体における博物館構想に関するシンポジ

ウムなども企画してほしい（博物館構想の望ましい在り方を今一度、議論するような内容を含む）

- 事務局回答： ・今後の講演会で検討したい。
- 中村委員： ・早く実施計画が立案・公表されることを望む。
- 山下委員： ・興味深い取り組みです。コロナ禍の影響で中止になったものは、令和3年度で開催できるようなので、問題ないと思う。
- 一寸木委員： ・コロナ禍で実施できなかった事業は、次年度に取り組みるとよい。
- 事務局回答： ・講演会は次年度に持ち越す予定である。

（質問）

- 田尾委員： ・地域資源の調査・整理及びマッピングについて、ホームページの URL を参考として呈示すべき。
- 事務局回答： ・「小田原市地理情報システム (Navi-0)」の URL は次のとおりである。
<https://www2.wagmap.jp/navi-odawara/Map?mid=9&mpx=139.09834293251532&mpy=35.255979574&bsw=1420&bsh=677>

2 協議事項

（資料 7）展示事業実施計画（令和 3 年度案）

（意見）

- 篠原委員： ・従来の展示更新（パネル、資料の変更）の内容とは別に、考古、歴史、民俗、自然科学、文化人などのカテゴリーを超えて、何らかの共通するテーマでの切り口による展示のあり方なども検討してほしい。
- 事務局回答： ・企画展にて検討しているため、今後進めていきたい。
- 一寸木委員： ・各展示の更新を進めることは必須で、引き続き計画的に進めてほしい。
・箱根ジオパーク関連展示が欲しい。三島市の郷土資料館にはある。
・収蔵洋画展では、市内公共施設にある作品と関連付けられるものがあるときは紹介して欲しい。
- 事務局回答： ・箱根ジオパーク関連展示は自然科学資料室にパネルを一枚展示しているが、ジオパーク全体の説明であるため、市内のジオサイトの地図と説明を掲示できるよう努めたい。
・今後、収蔵洋画展を開催する際には、作品の紹介の仕方について、今回のご意見を参考とさせていただく。
- 鳥居委員： ・「文化人資料室」と展示内容が一致していないことが気になる。
- 事務局回答： ・前述のとおり、対応していきたい。
- 山下委員： ・自然科学資料室の展示更新があるとよい（手伝います）。

事務局回答：・山下委員をはじめとした生命の星・地球博物館の学芸員にご相談したいと思っている。

(質問)

田尾委員：・前掲の資料 2-1 の質問に同じ。
・郷土文化館での企画展示がないのは、松永記念館での特別展示に重点を置くからか。

事務局回答：・平成 30 年度から特別展示、企画展示を松永記念館でのみ実施している。郷土文化館の展示ケースは密閉性が低く、また展示室に日光が入り込んでおり、資料保存に適しておらず他館から借用した資料を展示するには不適當である。松永記念館の展示ケースは一部エアタイトになっているため、松永記念館で実施することとした。考古、歴史、民俗についての展示も実施予定である。

(資料 8) その他普及事業実施計画(令和 3 年度案)

(意見)

篠原委員：・市民ボランティア参加型の普及事業については中期的な見通しを立てて臨んでほしい。松永記念館では和や日本文化に触れる体験的な学びの場を継続して提供してほしい。

事務局回答：・中期的な見通しを係内で話し合いたい。松永記念館の普及事業を継続して行きたい。

一寸木委員：・コロナ禍のため、人数を半減して実施したらどうか。
・内野邸については、石材についても扱って欲しい。

事務局回答：・普及事業の参加者数は、例年の半数程度を想定している。
・内野邸の石材について、参考にさせていただきたい。

鳥居委員：・資料 8-1 について、1 の郷土学習関係事業には複数回行う連続講座があるならば、その関係が分かるようにした方がよい。

事務局回答：・表記方法を検討したい。

(質問)

山下委員：・学芸員数に比べ、郷土学習等関係事業の回数は十分である。郷土文化館の学芸員が講師で開催するものはないか。

事務局回答：・小田原史談会共催講座で職員が講演する予定である。また令和 4 年度の郷土学習事業は館職員による講演を考えている。

(資料 9) 資料収集・調査・管理等業務実施計画(令和 3 年度案)

(意見)

- 篠原委員： ・資料7でも記したが、分野を横断するような切り口による収蔵品の見直しも視野に入れて事業を展開してほしい。
- 事務局回答： ・前述のとおり検討を進めたい。
- 一寸木委員： ・関東大震災関連の資料収集が必要かと考える。
- 事務局回答： ・新規資料の調査は鋭意進めたいが、石造物調査で関係する石碑を洗い出すなども検討したい。
- 山下委員： ・市民と協働する石造物調査はとても良い試みだと思う。継続することが大事なので、今後も活動を期待する。

(質問)

- 田尾委員： ・資料調査関係(2)は、昭和100年(2025)に向けての調査とあるが、その時点で企画展などを行う構想はあるか？
- 事務局回答： ・企画展示として行う予定である。
- 鳥居委員： ・資料9-1について、令和2年度の項にも記したが「協働」の定義についていかがか。
- 事務局回答： ・前述のとおりである。
- 山下委員： ・資料整理に関して、収蔵庫はまだ余裕があるか。昨今、どこの博物館も収蔵庫が足りないと聞くため。
- 事務局回答： ・収蔵庫に余剰スペースはなく、外部に収蔵スペースを確保したく検討を進めている。

(資料10) 博物館構想推進事業における取組計画(令和3年度案)

(意見)

- 篠原委員： ・博物館構想の望ましい在り方を市民の方々と意見交換できるような企画も今後は用意していただきたい。
- 事務局回答： ・博物館構想を進めるなかで、パブリックコメントを実施するよう検討したい。
- 田嶋委員： ・講演会は、有意義なものと思う。講師の先生方の日常の活動があつてのことと思う。
- 一寸木委員： ・講演会はUMECOか「けやき」でできるとよい。
- 事務局回答： ・講演会の会場は、第1候補をUMECO、第2候補をけやきで考えている。
- 鳥居委員： ・新しい館で行う展示活動のイメージ化、その展示活動を行うにあたり不足している資料のリスト化、データ化されていない所蔵資料の処理など、現実的な準備を考えることも必要ではないか。
- 事務局回答： ・新たな館で行う展示活動のイメージ化のため、今年度展示ガイドを刊

行した。展示ガイド作成により不足資料が顕在化したため、今後収集に努めたい。また資料リスト、データ化を引続き継続し、必要経費の予算計上を検討している。

3 その他

(資料 11) 令和 3 年度予算(案)

(意見)

- 篠原委員： ・郷土学習事業や博物館構想推進事業の予算を今後は拡充して欲しい。
- 事務局回答： ・予算を確保できるよう努めたい。
- 田尾委員： ・歳入の内容が館の事業収入に限られているが、公費支出分は歳出総額から歳入総額を引いた額と考えてよいか。内部秘資料で予算(案)とするのならば、そのあたりは明記してもよいのでは。
- 事務局回答： ・事業収入は市の歳入に組み込まれ、郷土文化館係の歳出予算に影響しない。そのため公費支出分は歳出総額と同額である。

(質問)

- 田尾委員： ・管理運営事業の歳出で、松永記念館が本館を 2 倍弱上回る理由は何か。松永記念館の整備等が令和 3 年度の夏前まで継続しているか。
- 事務局回答： ・松永記念館は敷地内に展示棟や茶室など 7 つの施設を有し、庭園の管理等もあるため、機械警備の委託料や人件費の面などで、郷土文化館に比して予算規模が約 2 倍となっている。また松永記念館の整備は令和 3 年度 6 月末までを予定している。
- 一寸木委員： ・歳入が下回る記述で良いのか。歳出とあわせて 0 になるような表記でなくてよいのか。
- 事務局回答： ・歳入については、一般財源を除いた、特定財源だけを記入したため、こうした表記となっている。
- 鳥居委員： ・新館で行う展示に備え、計画的な資料収集についてはどの様に考えているか。
- 事務局回答： ・新しい博物館でどのようなテーマで何を展示していくのかを検討した上で資料の収集計画を立てるべきだと考えている。博物館の立地などに影響されると考えている。
- 山下委員： ・歳出に関して、調査研究費のようなものはないか。
- 事務局回答： ・資料調査出張費、調査用消耗品費、調査員の謝礼がある。

(参考資料) 常設展アンケート結果 (令和2年度)

(意見)

- 篠原委員： ・紙媒体と併用してデジタル媒体でも回答できるようなアンケートなども今後、検討してみしてほしいと思います。
- 事務局回答： ・来館者にデジタル媒体を提供する手法を実施していないため、手法や機器について検討していきたい。
- 田尾委員： ・アンケートについては、入館者数を分母としたときの回答者があまりにも少ないため、自由記入が若干の参考になる以外は、統計的に館運営に生かすデータとするのは難しいのではないかと思う。入館者調査のあり方を検討する必要がある。
- 事務局回答： ・アンケートは動向調査よりも展示内容、施設管理に関する意見を集めることを主目的として実施している。
- 田嶋委員： ・参考資料と展示について、「もっとクイズあれば面白そう」「外から入りやすいよう、子ども向けイベントぼくしてほしい」とあったように興味を引く展示や案内、体験、クイズ型の展示などについても考えてほしい。小学生とその保護者、学校が活用する数が増えることを期待する。
- 事務局回答： ・郷土文化館建物を保存して欲しいという意見を聞いた。アンケートにも「建物自体も歴史的価値あり」と在り、多くの小田原の皆さんが自分の生活や成長過程の中でかかわりをもっていると思う。
- 事務局回答： ・展示は小学生の理解しやすい内容、興味を引く内容を検討していきたい。
- 事務局回答： ・郷土文化館の建物は国指定史跡内にあり、建物の保存は難しいものと考えている。
- 鳥居委員： ・アンケートの(2) 展示内容については、年齢に応じた評価の違いもあると思うが、これではそれを読み取る事が出来ないと思う。こまかく分けるのは難しいと思うが、ある程度分けないと問題点などを見つけることは出来ないのでは。
- 事務局回答： ・ご指摘のとおり年齢に応じた評価が必要であるが、高齢者以外の回答数が少ないため、統計の意味をなさない状況である。
- 山下委員： ・観光で来られた方が半分を占めるが、観光で来られた方と楽手で来られた方との興味がわかると、今後の展示に活用できるかと思う。
- 事務局回答： ・ご指摘のとおり目的別の分析により傾向が変わると思われるが、データ数が少なくなり意味をなさなかったため協議会資料には全体の分析結果を提示している。

(質問)

山下委員： ・実施期間が6月から12月となっているが、開館中はずっとアンケートを実施しているという理解でよいか。

事務局回答： ・アンケートは開館期間中常に実施している。

その他、御意見、御質問

(意見)

篠原委員： ・コロナ禍で博物館運営も非常に厳しい状況に追いやられていたことと思うが、地元で愛される地域の博物館として今後も継続して魅力ある活動を展開していただきたい。

事務局回答： ・コロナ禍での地域への発信は難しい状況であるが、手法検討を進めたい。

田尾委員： ・書面会議であっても会議の体裁をとるのであれば、単に通常の会議資料のみを配布して意見・質問を求めるのではなく、短くてよいので、資料の要点について項目ごとに説明を付すべきではないかと思う。初めての書面会議であるかもしれないが、委員に対して丁寧ではないかと感じた。

事務局回答： ・今後書面協議を行う際に参考にさせていただきたい。

田嶋委員： ・かつて「夏休みの宿題を面倒見ます」という小学生向けの企画があり相模湾の貝をとって郷土文化館の先生が教えてくれて嬉しかったと聞いた。

事務局回答： ・他館でも実施されているが、職員の負荷が高く実施できていない。

中村委員： ・このような時代に博物館は何をすべきかを考えてしまいました。いつも変わらず安定してあるのがよいのか、時代に立脚してテーマなどを考えるべきなのか。メッセージ性を持つべきなのか迷います。皆さんと議論したいと思いました。

事務局回答： ・対面協議が可能になった際には、議論いただきたい。